

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 4 区分  
 【発行日】平成22年11月11日 (2010.11.11)

【公表番号】特表2010-508800(P2010-508800A)  
 【公表日】平成22年3月18日 (2010.3.18)  
 【年通号数】公開・登録公報2010-011  
 【出願番号】特願2009-534737(P2009-534737)  
 【国際特許分類】

H 0 2 G 15/113 (2006.01)

H 0 1 R 4/70 (2006.01)

【 F I 】

H 0 2 G 15/113

H 0 1 R 4/70 B

【手続補正書】  
 【提出日】平成22年9月21日 (2010.9.21)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

ケーブルスプライス用の再挿入可能なエンクロージャであって、  
 第 1 のカバー部材と、

前記第 1 のカバー部材に嵌合するように構成された第 2 のカバー部材であって、前記第 1 及び第 2 のカバー部材が、開位置と閉位置との間で可動であり、前記第 1 及び第 2 のカバー部材が、前記カバー部材が前記閉位置にあるときに、前記ケーブルスプライスを包囲するためのキャビティを形成する、第 2 のカバー部材と、

前記第 1 及び第 2 のカバー部材の少なくとも一方における内壁であって、前記キャビティを少なくとも部分的に囲むシーラント格納空間を画定するように構成された内壁と、

前記第 1 及び第 2 のカバー部材を前記閉位置に保持するように構成された少なくとも 1 つのラッチであって、前記シーラント格納空間を通して延びる線分に沿って圧縮力を及ぼすように構成された、少なくとも 1 つのラッチと、を備えるエンクロージャ。

【請求項 2】

前記第 1 及び第 2 のカバー部材が、前記キャビティの第 1 の長手方向縁部に隣接して回転可能に結合し、前記シーラント格納空間が、前記第 1 の長手方向縁部とは反対側の前記キャビティの少なくとも第 2 の長手方向縁部に隣接して延び、前記少なくとも 1 つのラッチが、前記キャビティの前記第 2 の長手方向縁部に隣接して延びる前記シーラント格納空間を通して延びる線分に沿って、前記圧縮力を及ぼすように構成される、請求項 1 に記載のエンクロージャ。

【請求項 3】

前記少なくとも 1 つのラッチが、前記キャビティの前記第 2 の長手方向縁部に沿って複数個の点において前記圧縮力を及ぼすように構成される、請求項 2 に記載のエンクロージャ。

【請求項 4】

前記少なくとも 1 つのラッチは、実質的に前記第 2 の長手方向縁部の全体に沿って前記圧縮力を及ぼすように構成される、請求項 2 に記載のエンクロージャ。

【請求項 5】

前記第 1 及び第 2 のカバー部材の少なくとも一方における前記内壁には、前記第 1 及び第 2 のカバー部材の一方における少なくとも 1 つの内壁であって、前記第 1 及び第 2 のカバー部材が前記閉位置にあるときに、前記第 1 及び第 2 のカバー部材の他方における前記シーラント格納空間内に入れ子になることにより、前記格納空間内に含まれるシーラント材料を圧縮するように構成された内壁が含まれる、請求項 1 に記載のエンクロージャ。

【請求項 6】

前記シーラント格納空間内に配置されたシーラントを更に備える、請求項 1 に記載のエンクロージャ。

【請求項 7】

前記シーラントが、前記シーラント格納空間内に保持される予備形成された形状を備える、請求項 6 に記載のエンクロージャ。